

全国大学反戦ストへ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2015年11月22日
No.342

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

11・14民衆総決起大会に参加した訪韓団の感想!

■沖縄大学学生自治会委員長・赤嶺知晃

動労千葉訪韓団として韓国を訪問してきました。今年の訪韓闘争は、初日から日韓学生交流会で始まり—民衆総決起大会—各闘争現場の訪問—理念交流会と本当に充実したものになりました。

日韓学生交流会は、かつて学生運動を闘った民主労総の同志の尽力で実現しました。交流会で分かったことは、韓国でも日本と同じように「就職率の悪い学科は潰す」といった大学への新自由主義攻撃が行われ、学生が「学費・就活・奨学金」で縛られ、政治的に声を上げることを奪われていることです。同じ新自由主義大学下で闘う日韓の学生が課題をいかに突破するか討論できたことは、とても有意義でした。

14日の民衆総決起大会は、本当に歴史的な闘いになりました。集会場であるソウル市庁前広場は、完全に民主労総が制圧し、市庁舎周辺の6車線道路をデモ隊列が座り込んで占拠しました。集会は、ハン・サンギョン委員長の「今日はソウルの街を労働者の街にしよう!」という言葉で締めくくられ、参加者は光化門へ勇躍デモに出発しました。

デモ隊が文字通りソウルの街を走り抜け、次々と機動隊の放水車を撃破して光化門に進撃していきました。デモで走り抜ける途中、飲食店のテレビにデモの先頭で放水車と闘う民主労総の姿が映っていることや撃破された機動隊車両を通り過ぎる中で、自分が歴史的闘争にいることを実感しました。もう少しで光化門という所で大激突が起き、デモの後方から先頭の様子を心配している時に、これ以上はどうか分からないということで訪韓団は離脱すること

になりました。

最後まで闘争に参加できず残念な気持ちで帰っていましたが、帰りながら、闘争の最前線から相当離れた場所でも6車線道路に車が一台も走っておらず、歩行者天国になっていることに気づきました。完全にソウルは「労働者の街」になっていました。ホテルに帰ってニュースを見ると、民主労総が先ほどの激突に勝利してさらに前進しているのが分かり、学生訪韓団全員で喜びました。

15日の各闘争現場訪問は、民主労総の力をさらに実感するものでした。訪問したコルト楽器の労働組合や大手スーパーの労働組合は、民衆総決起という巨大な闘争に参加した上でしっかりと翌日から闘争を続けていました。やはり、民主労総の一つひとつの闘争現場を大切に作る姿勢に民衆総決起を実現した力があると実感しました。

16日の理念交流会では、パククネ政権の国定教科書問題が大焦点化する中、全教組のソウル本部長イ・ソンデさんが講演してくれました。

訪韓闘争に参加し、韓国労働者階級の闘う姿を見て、現場から資本と絶対反対で闘う団結をつくることができれば国家権力と真正面から闘って勝利できると確信しました。民衆総決起に参加する民主労総組合員は、非常に冷静でした。団結して、一糸乱れぬ隊列で進撃する民主労総にパククネは相当追いつめられたと思います。

私も沖大キャンパスでの闘いをもっともっと精力的に闘い、沖大生との信頼関係をつくって、強固な学生の団結をつくっていきます。戦争・辺野古新基地建設を止める沖大ストライキ、沖縄全島ゼネストに向け、民主労総のソン・ホジュン事務処長が日本での理念交流会で語った「(巨大な階級闘争をつくるためには)英雄的で革命的な活動家たちが一所懸命に見えないところで献身的に闘いを準備する。その過程こそが大事だ」という言葉を胸に頑張っていきます!

■広島大学学生自治会委員長・森田寛隆

労働者階級の誇り高さとその本当の力の大きさを実感した訪韓闘争でした! 14日の民衆総蜂起は、心の底から労働者が立ち上がれば、文字通りできないことはないのだということが圧倒的規模で示されていました。「この日はソウルを労働者の街にする」。指名手配を受けながらも登場したハン・サンギョン委員長のこの言葉通り、ソウル市庁前広場を



闘う韓国の労働者・学生と
圧倒的な交流を実現!!

中心として周囲一帯が10万人を超える集会参加者で埋め尽くされました。大音量スピーカーで訴えが街中に響き渡り、6車線道路が夜遅くまで数時間にわたって解放区になりました。その先頭では警官隊と殺人的放水が襲い掛かる中、光化門への道をふさぐ機動隊車を引き倒して進んでいくデモ隊。「戦場のような現実」を生み出すパククネ政権への怒りと同時に、自分たち労働者階級自身に力があるのだという誇り高さがあるからこそ、命がけの決起がこれほどまでの規模で打ち抜かれたのだらうと思います。

16日の理念交流会で、全教組のイ・ソンデ支部長は「非法下でも闘ってきた全教組にパククネは指一本触れることはできない」「規模や勢力の問題ではなく、成していることが正義かどうか。大衆は必ず正義に応えてくれる」と言いました。この組合の団結、階級に対する信頼が核心だと感じました。韓国学生と交流できたことも決定的です。韓国では大学の登録金(授業料)値上げ反対闘争が1万人を超える学生によって取り囲まれ、警官隊との激突も辞さずにやり抜いて、安い学費を一定かちとったそうです。大学や法律で認められなくとも、韓国の学生会(自治会)には全学生から会費を集める力もある。その一方で、学生の就職率低下・非正規雇用増加の新自由主義社会の下で政治を奪われていている現実とは日本とまったく同じでした。未来を担う存在は私たち学生以外にいないのだということ。このことに確信をもち、この確信をどれだけ広く共有できるか。国境を超えて課題は一つだということを実感しました。この課題を突破するべくキャンパスで闘います！ トウジェン！

■京都大学・A

訪韓して民主労総のデモと集会に参加し、「常識などというものは存在しない」ということを改めて感じました。

11月14日の民衆総蜂起では、朝からソウルの街中がデモに参加する人で賑わい、道路ですれ違う人々は皆自分の組合のカラフルなジャケットや帽子に身を包んでいました。ソウルの街全体が一斉にストライキに立っているようなそんな光景を前に私は目を丸くして驚き、日本ではありえない異様な状況に血が騒ぎました。

政府の政策に反対する人々が自然に受け入れられている

だけではなく、明らかな主流派として堂々とソウルの街に登場し、様々な主張を繰り広げていました。

デモと集会が始まると、さらに人は増え、次第に周囲の道路をすべて埋め尽くす様ようになりました。最後に指名手配中のハン・サンギョン委員長が堂々と壇上に現れてマイクでアジテーションを行ない、デモ隊の先頭に立って力強く民衆を扇動した時には、こんなことが可能な国が存在していたかと心から驚き、常識というものの曖昧さを痛感しました。韓国の警察権力はハン・サンギョン委員長を指名手配しているにも関わらず、民衆の怒りを抑えられないために逮捕には踏み切れないでいたのです。

その後、道路を警察車両で封鎖する警察権力とデモ隊の衝突が街中のいたるところで起き、集会場所に集まる人々を遮るために設置された警察車両は蜂起した民衆の手で強制的に移動され、広い道路は集まる民衆に占拠され続けました。そこには、現在の日本では考えられない、国家権力以外の「権力」が堂々と存在していました。

続いて16日には、民主労総ソウル本部との理念交流会が開催されました。日韓の間に存在する目を背けたくなるような歴史を改めて確認し、これらを認めた上でどうやって日韓の労働者が国際連帯を広げていくのかについて討論がなされました。現在韓国では国定教科書問題が話題になっており、韓国の教育労働者が闘うために日本の教育労働者との連帯を強く求めていることを知りました。これこそが具体的な国境をこえた労働者の国際連帯なのだと、実感しました。

三里塚・市東孝雄さんの農地取り上げに反対するシンポジウムが大成功！(11月21日、東京・全水道会館)



【当面する行動方針】

● “今こそ星野文昭さんを取り戻そう” 11・29全国集会

11月29日(日) ◆12時開場 ◆13時開会 星陵会館にて

主催：星野文昭さんを取り戻そう！全国再審連絡会議

● 武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判控訴審一判決

12月3日(木) 13時半～ 東京高裁にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

● 武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半～ 東京高裁822号法廷にて

